

センターだより



阿南市青少年健全育成センター No.161 (令和2年度秋号)

1. With コロナ (1) ストレス調査

2020年6月初旬に関西のある自治体で、約600人を対象にストレス調査が実施されました。兵庫県立大学の富永教授のグループが熊本地震直後に行ったものと同じものです。

熊本地震直後に「**高ストレス群**」に分類された割合は、**中学生全体の11.9%**でした。彼らの多くが「眠れない」等のストレス反応を示していましたが、今回登校を再開した6月の調査で、「高ストレス群」に分類されたのは、次の通りです。

	男子	女子
小学生	19.2%	23.4%
中学生	7.4%	15.5%

中学生男子以外は、**大地震直後よりも高いストレスを抱えている**ことがわかったのです。調査した子どもたちが通う学校の先生方に聞いてみると、「小・中学生ともに、まじめに平穏な学校生活を送っている」そうです。不登校生が頑張っている等、「普段以上の頑張りを感している」と、いう声まで聞こえました。

(2) 過剰適応

「過剰適応」という言葉があります。実際に調査した子どもたちを見ているわけではないので、正確に言えることは少ないのですが、先生方から見て頑張っている子どもたちが、実は高いストレスを抱えているとしたらかなり深刻な状況です。

宮城県教育委員会調査（平成25年度）

不登校児童生徒の割合が中学校で**9.1%**（前年度**6.7%**）、小学校で**11.1%**（前年度**11.0%**）で**増加傾向**にある。小学生・中学生ともに不登校の理由として「無気力」が上位を占めており、震災による**ストレスや経済的ダメージによる無気力が不登校につながっている可能性が考えられる**。

また、宮城県内の児童生徒の**いじめ・暴力行為・不登校はいずれも増加**しており、これらの問題行動は震災の影響であると報告されている。

時間の経過とともに顕在化する子どもの心の問題

震災から年月が流れれば様々な問題が解決していくように思えるが、調査でも「震災から時間が経過し、生徒の抱えていたものが表面に出てきたような気がする」「フラッシュバックする子がいる」「避難訓練があると数日間、精神的に不安定になる子がいる」「戦争単元学習で津波を思い出してしまう子など、配慮を必要とする子が多数いる」など、**震災後から時間が経過しているにも関わらず事態が深刻化している**状況がうかがえる。

それを裏付けるように阪神・淡路大震災、新潟中越地震の調査においても、「心の健康について**教育的配慮を必要とする児童生徒の数**」や「心のケアにかかわる**カウンセリングを受けた児童生徒数**」は**震災後4年が最も多く、時間の経過とともにこころの問題が顕在化**しやすいことが示されている。

(3) 子どもたちのストレスは？ 心は？

運動会や文化祭等の学校行事は、子どもたちの楽しみでもあります。今、それらも通常通りの実施が困難な状況になっています。夏休みを短縮して、授業時間の確保が優先される状況だけでなく、**社会や家庭生活の中でも**求められる「**新しい生活様式**」が子どもたちに与える影響を十分に考えていくことも一方では求められます。

東日本大震災でも、阪神・淡路大震災でも、発生直後の子どもたちは「お利口」でした。大人が困っているから、子ども心に良い子を演じていたのかもしれませんが、彼らが2～3年後に大きく崩れたという報告は、各地から聞こえてきました。

目の前の子どもたちのストレス度は、大丈夫ですか？ 今一度、子どもたちと共にそのストレスをどうすれば軽減できるのか、立ち止まって話し合いしっかり考えていく必要もあるのではないのでしょうか。

【参考】月刊生徒指導2020 兵庫県立大学准教授 竹内和雄

2. SNS被害が過去最多！

2020年3月に警察庁が発表した統計によると、2019年にSNSを通じて事件に巻き込まれた18才未満の子どもは2082人で、前年2018年を**271人（15.0%増）**上回り、**過去最多**となりました。このうち小学生の被害者は**72人**で前年2018年より**17人増加**し、**過去最多**。

また、昨年2019年に摘発された児童ポルノ事件の被害にあった子どものうち、子どもが自ら撮影した画像にともなう被害、いわゆる「自画撮り」は**584人で約4割**を占めています。「自画撮り」の被害にあった小学生は**41人**でした。

(1) いつの間にか被害者に？

子どもが使用するゲーム機でも、オンライン対戦ができるゲーム、音声チャットやフレンド機能などが組み込まれたゲームがたくさんあります。スマートフォンに限らず、インターネット環境があれば、見知らぬ第三者とつながる可能性はあるということ。

相手に悪意があれば、無防備な子どもをだますのは簡単です。プロフィールを偽って言葉巧みに子どもに近づき、裸の画像を送らせたり、連れ去りや性犯罪に及んだり、悪質な犯罪があとを絶ちません。男の子の子供の間で、誰でも被害者になりうるのです。**この事実を、まずは知ることが大切です。**

(2) フィルタリングと機能制限は不可欠

警察庁の統計では、SNSトラブルで被害にあった児童の**約9割がフィルタリングを利用していなかった**ことがわかっています。インターネットの知識を学びはじめたばかりの**小学生は、フィルタリングは必須**です。

スマホを使う場合、携帯各社が提供するフィルタリングサービスのほか、Wi-Fi通信にも対応したブラウザのフィルタリングもあります。最近のものは、細かくいろいろと設定することができ、フィルタリングをしながら特定のアプリを使うなどのカスタマイズも可能です。使い方や成長にあわせて安全に使えるように設定しましょう。

SNSを利用するなら、**保護者がお子さんにあった設定や機能制限を行うことが必要**です。**情報公開の範囲、プライバシーの設定**などは、特にしっかり見ておく必要があります。オンライン機能があるゲームについても同様です。ゲーム機やスマートフォンにダウンロードしている場合も、**公開範囲や交流制限などインターネット通信の設定を確認**してから利用させるようにしてください。

(3) 保護者が関心を持ちましょう

フィルタリングはとても大切ですが、それだけでは不十分。まずは子どもとSNSの利用方法について話し合い、利用時間や利用場所などルールを決めましょう。次のようなことを伝え、具体的にどんなルールを決めるべきか見えてくるとと思います。

- ① SNSやオンラインゲームには子どもをだまそうとする人もいます。
- ② ネット上で知り合った人を安易に信頼したり、やり取りしたりするのは危険。
- ③ ネット上に一度出回った情報は消すことができない。
- ④ 自分の写真や個人情報を投稿したり、相手に送ったりすると、悪用されるかもしれない。
- ⑤ 文字のコミュニケーションは誤解を生みやすく、トラブルになることもある。

小学生のうち、インターネットへの理解度や物ごとの考え方も未熟な部分があります。本来なら、SNSをはじめとするオンラインでのコミュニケーションは少し早いかもしれませんが、利用するならば、今は練習期間だと考えましょう。

フィルタリングだけ設定してあとは子ども任せにするのではなく、**定期的に利用状況を確認**してください。子どもが使用しているアカウントを開き、**誰とつながっているのか、どんなコミュニケーションをとっているのか**など、実際に目で確認しましょう。

子どものプライバシーに踏み入ることを心配する方もいますが、安全に使えるようになるまでは保護者のフォローが欠かせません。小学校での交友関係を把握するのと同様に、子どものSNS利用に関心を持ってかかわることが大切です。

被害を未然に防ぐためにも、少しでも困ったことや怖いことがあったら**すぐに親に伝えるよう約束**させましょう。

SNSでしかつながれない。そんな今だからこそ、どんなに小さなことでも話せる親子の関係性を築くことが求められているのかもしれない。

